

# お話の調べはいつ始められるのか(お話漫筆三)

長尾 豊

## お話そのものを

「何がお話か。」お話とはどんなものか知らない人はないとしても、さてお話とは何かと坐り直して考へて見ると、餘りさう容易に答へられる問題ではなくなる。假にお話といふものが分つたにしても、どれが好いお話で、どれが面白いお話かといふ事になると、大分むづかしい問題に成つて来る。更に其のお話がなぜ好いお話なのか、どうして面白いお話であるか、其の面白いわけを調べるといふ段になれば、一層むづかしい事になる。けれどもお話を調べ、好いお話や面白いお話を

知るには、昔からある名高いお話を調べて、それがなぜ面白いのか、子供にも話して聞かせて話材や話のもつ意味や、話の組立や、聞手の喜ぶところを仔細に見なければ、實は何も分らない事になる。只お話を調べる、お話を聞かせるといふことも、實は此のお話を調べて、下讀みをして置くやうな用意はなければならぬが、併し、お話を扱うとすれば先づ其の前にひと通りはお話といふものに就いて調べて置いても好い筈である。

お話を調べるのに先づ兒童とお話の関係といふやうな所から調べ始めるのも、決してあやまりではなからうが、それは要するに兒童とお話の関係

であつて、それだけ調べたのではまだ「お話」を調べた事にはならないと思ふ。此の頃では大抵の児童學の書物や児童心理の書物にも童話のこと、お話のことは出てゐる。さういふ所に根據を置いてお話を調べるのは、甚だ結構なことと思ふが、併し、児童學や児童心理だけで、お話研究やお話教育の問題を片附けるわけにはいかない。お話に關して調べることもとより必要ではあるが、お話そのものを、實際に當つて調べて見なければ、机上の空論でないにしても、議論だけ覺えたのでは先づ餘り役に立つものではないと思はれる。

### 文藝論とお話の仕方

お話といふものは多くの人が考へてゐるやうにそして扱つてゐるやうに、そんなに容易なものではないと思ふ。が又決して手も附けられないやうなむづかしいものでもないと思ふ。お話にも理論

と實際のふたつの方面がある。理論の方面も調べればひと通りは調べられるし、實際の方も先づ其の心して手掛けてゐればひとわたりは分るものらしい。けれども今日では調べられてゐる範圍が餘り廣くなく、又往々にして的放れなお話研究もあるので、お話を調べる人は定めし調べ憎からうと思はれる。

理論の方から言へば先づ童話論といふものがあつて、一般の童話に就いて概念を與へて呉れるが其の一方には創作童話家の童話論があつて、表面これが混同されてゐる。童話作家の童話論は先づ文藝論で、一般の童話を調べる上には餘り役に立たない。しかも一般の童話を文藝として調べるといふやうなことは、今日餘り行はれない。

實際にお話を聞かせる方面でも、只お話をする時の方法論や態度論だけで終始してゐる。それも多くは演壇に立つて、多勢を相手に話すやうな場

合のことが考へられてゐる。そしてお話の仕方が調べられる一方では、お話そのものが等閑に附せられて、幼児噺や童話をほんたうに調べるといふやうな事とはいよ／＼遠く成つて行く。それも専門的なお話口演家がさうであるのは先づ好いとして、其の摸倣者達から、お話はかくすべきものと早飲み込みで飲込んできめてしまふのは詰まらない事だと思ふ。一時、「見るお話」といふわけでもあるまいが、話術の動作化が流行したらしい。そして其の首唱者が黙つてしまつた今日此の頃に成つて、それが多くのお話口演家や、いかにお話を聞かすべきかといふ事を考へる人達の間に入込んでゐる。一時の流行が今日やつと普及したものかとも思はれる。

### いつまで續くのか

お話の議論がどうあらうとも、又其の仕方がい

かに調べられようと、昔からある名高いお話、幼児噺や童話を調べないで、ひとつのお話でも出来るものではない。諸國の幼児噺やグリムの童話集などから、代表的なお話を選んで調べて見ることは、最も實際的なお話の研究であると思ふが、其所に支障とするのは、よい翻譯や再話の少ない事である。

多くの童話書は童話を話文學として傳へてゐない。幼児噺などになると、言はず子供だましのものを書いてゐると言つた鹽梅で、少しも原話の文學的な匂ひが傳へてない。原話の形態や叙述、それから来る美しさや面白味の夥しく失はれてゐる場合が多い。さういふ生硬な紹介でも、原始の妙は窺はれないことはないが、餘程氣を附けて讀まないとは、ともすれば見過してしまふお話がある。そこで好いお話、面白いお話が取立てゝ調べられないのは、ひとつは此の紹介翻譯が、お話を

調べるために、鑑賞といふ態度で讀むのに不適當なものだからとも思はれる。

お話の呼び聲高く、世間では先づ流行してゐるやうでもあり、又それがやうやく重視され、研究される機運に向ひながら、なほ好いお話面白いお話、昔からある名高いお話が調べられずに、此の頃出來の好い加減にデツチ上げられたものや、好いお話の歪められたものが其のまま行はれてゐるのは、やはり此の好いお話、面白いお話、昔からある名高いお話が調べられない事に原因してゐると思ふ。

繪畫や音樂といふものは習はなければ、學ばなければ出來ないものである。詩や劇や童話といふものも同様に學ぶべきものであり、習つて出來るものであると思ふが、童話や兒童劇やお話の事になると、繪畫や音樂の半分も學ばれてはゐない。勿論それを學ぶことの便宜が乏しいことも其

の原因ではあらうが、いつまで此の状態が續くのであらうか。分り切つたやうな事で、思へば不思議な話である。

（三四頁より）

○

講習の利用といふ事が近來益々盛になつた事は誠に喜ばしい現象であると思ひます。之によつて我々の利益せられる點も亦非常なものであります。が、一朝その利用をあやまるとかへつて弊を醸し出す事になります。故に此の際出來るだけの努力と眞面目な精神を以つてこの講習の善用につとめ講習の理想境を作つてこれを所謂我々等の講習とし、從來の弊を一掃したいものであります。